

---

# **異常な世界　男子高の物語でBL要素満点ですww**

和茶巣

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

異常な世界　男子高の物語でBL要素満点ですww

### 【著者名】

N6252X

### 【作者名】 和茶巣

### 【あらすじ】

上陽学園、ここは日本で一番入るのが難しい男子高だ。  
そこに通う男子たちが繰り広げる、物語。

BLです。

異常な世界 一話（前書き）

小泉 春（春）  
こいづみ

誕生日 4／7

高校三年の18歳

周りにはバカって言われているww  
高校一年の弟がいる。

そして、弓道部の部長をやつている。  
クラスの中では成績は下から数えたほつがはやい。  
家は政治関係の仕事をしている。  
誰にでも優しく、クラスの人気者。

## 異常な世界　一話

? 「もうすぐでもうすぐで会えるんだよ。ねえ、早く会いたいな。」

高校三年の初めこんな事が始まろうなんて…

タツタツ

春「ヤバいやばい！あと、五分！…」

ハアハアハア

春「セツセーフ！…」

バンッ

? 「アウトだバカ。」

春「痛！…なつ、セーフだろ！結！…！」

結「一分遅れてんだよ。」

春「一分ぐらいいいじゃねえか！」

結「駄目な物は駄目だ！」

春「結のケチ！…行くなら起こしてくれたつていじやないか！」

結「バカか、今日は生徒会の仕事ではやくから行へつて言つてただろー。」

春「あーもう！…バカバカうるさいんだよ！…結のバカ！…」

結「チシ、やんのか！…」

タツタツタツ

?「結わーん！…いい加減喧嘩しないで来てください。ここ一歩すばぐ、始業式が始まりますよ！…」

結「ああ、」めん空。今からせつて行へよ。」

空「はー…」

結「そうだ、おー春！れ。」

そういうつて結が俺に紙とネクタイを渡してきた。

春「ん？」

結「ん？じゃない。紙は組が書いてるやつ、ネクタイはお前がしないからなー。」

そういうつて、結は俺の首にネクタイを着けてくれた。

結「始業式ぐらいい、ちやんとした服装で来いー！」

春「すまん。でも、サンキューーーありがとうなーーー！」

ジー

うわ、結の後ろから冷たい目線が！

結「空体育館にいくぞ。」

空「はい！わかりました！」

ソフ

空「春もさつあと体育館に来いよ。結さん恥じかかせたらタダじやおかねえから。」

うわーすじー変わりよつ

## 異常な世界 一話（後書き）

秋月 結  
あきづき ゆい

誕生日 12/2

成績優秀・運動神経抜群・文武両道とゆづかじい肩書きをかつせりつている高校三年。

春とは、小学校の頃出会ったころからの付き合いで幼なじみ。クールで静かだが、怒ると怖い。

家は上陽学園の理事長や校長、医者などをやっている。生徒会長をしている。

空は次の前書きで書きます（^○^）／

## 異常な世界　一話（前書き）

野上 空のがみ そら

誕生日 5／14

生徒会副会長

家は野上財閥といつ有名な財閥で世界で一番か一番を争う財閥だ。

そして、結の事が大好きで、結にだけは敬語を使つ。春たちとは中学生から付き合つようになった。岬とは幼なじみ。

## 異常な世界 一話

ガラッ タツタツ

? 「おい! 遅かつたな。寝坊か?」

春「うるせえ、いいだろ! 岬!」

岬「なんだと! 喧嘩売つとんのか?」

空「そこの人たち。もつすぐ、始業式が始まるので静かにしてください!」

岬「つと、始まるみたいだな。静かにするか。」

春「そうだな。」

空「ただいまから始業式を行います。新一年生が入場しますので、拍手で迎えてください。」

パチパチパチ

ボソッ

岬「なあ、春の弟つてこの学園に入つたんだよな?」

春「ああ、一年の代表だったかな?」

岬「マジか！兄弟で大違いだなｗｗてか、Ｓクラス行き間違いない  
んじゃねえ？」

春「かもなｗｗ」

この学園は一年は様子見のため成績順でA～Dの4クラス。  
二年からはその上のクラスＳクラスと言うのが出来る。  
そして、俺ら四人はＳクラスに所属している。

さつさと、おわんねえかな？

結「それでは、先生方の紹介をいたします。」

岬「なあ、また理事長や校長たちは丸投げか？」

春「そうじやねえ？」

「この先生たちは大抵生徒の自主性を伸ばすために始業式などの同  
会は生徒に任せている

結「それでは、一年の先生方から……」

岬「先生だれになるんだろう？」

春「どうせ、また新谷だろ？あいつ先生の中でも一番偉いんだろ？」

岬「なんだ。てか、俺あいつ嫌いなんだよな。」

春「俺もだよ。」

結「Aの担任は新谷先生。」

ザワザワ

岬「はあー。マジで！？」

春「毎年、Sクラスの担任は新谷だろ？」

空「静かにしてくわい！」

結「えー、それではSクラスの担任は？」

春「なんでー？なんでこらんだよー？」

異常な世界　一話（後書き）

鈴岡 岬

すずおか  
みさき

誕生日 9 / 7

剣道部の部長

こいつもバカと言われている。

春とは最下位争いを繰り広げている。

家は剣道の名門である事情があって、別の仕事もしている。

空とは幼なじみで春たちとは中学生から付き合つようになった。

異常な世界 三話（前書き）

憂騎 ゆうき  
零 れい

誕生日 8/17

現在20ながらも上陽学園の先生になることになった。  
学園にいたときはテストは100以外とった事はないくて生徒会長をやつていて、結も入学式に強引に生徒会に入れられた。  
今年、Sクラスをもつ事になった。

? 「ハローーー・ニの奴らは初めまして! 三年の奴らは久しぶりー」

ダツダツ

春「なんでー? なんで、 零が入るのでか、 先生になつたつてマジー!」

零「春ー! 久しぶりだなー! 元気にしてたか? てか、 先生じゃ無かつたらここにいないだろ? 相変わらずバカだなWW」

春「バカ言うなー! てか、 今零つて今年で20じゃなかつた?」

零「そうだよ。 大人の事情だから、 詳しくはきくなWW」

春「わかつた!」

結「憂騎先生と小泉さんは早く戻つてください。」

零・春「えー!」

空「さつさと帰れって言ってんだろ? 五秒以内に帰らないと反省文50枚。 もちろん、 先生も」

うわ怖!

春「岬ー怖かつたー!」

岬「ドンマイ ウウ空は怒りすと怖いからな ウウ」

結「次は、一年生徒代表の挨拶です。」

?「はい。先輩の皆さま方、一年代表の小泉 葉です。」

岬「春、弟の登場じやん!」

春「ああ。」

結「以上で始業式を終ります。」

異常な世界 三話（後書き）

小泉  
こいずみ

葉  
よつ

誕生日 3 / 26

春の弟

もしかしたら、春より賢い！？

一年代表でAクラスに所属している。

岬の事を師匠とよんでいて、したつている。

春「にしても、疲れた！ なげーよーー！」

岬「始業式はまだ短いほうだろ？ つか、弟くん凄かつたなーー！」

春「ああ、そうだな。」

岬「ん？ どうした？」

春「なんでもねえーよバカwww」

岬「なつー？ お前のほつがバカだろーー！」

? 「バカども、ケンカはやめる。」

春・岬「ああーー！」

空「そりだよ、ケンカするなみつともない。」

春「ああー？ なんていった？」

結「うるさいバカ！ バカにバカつていつて何が悪い。」

春「ああー！ それは、ケンカ売つてんのか？」

澪「初日からケンカするなー！ バカやねー！」

結「なつーー?」

春「はつはつはつー 結バカやうひひと言われてるーー」

結「ひるむこなー」

澪「お前らあと五分でホームルーム始まるってわかつてつか?」

岬「うわー? ほんじだーー やべえー」

空「わかつてたなら、先に言えよー 濶じゃなかつた憂騎先生ーー」

澪「遅れたやつ、殺すからーー よーこー」

春「ちよつー?」

澪「どんーー」

異常な世界 四話（後書き）

どーも！

作者ですww

いつもは、キャラ紹介なんですが、新キャラが今回はないので書けませんww  
まあ、後々でる予定ですww

次の予告

三年になつた四人、教室では見慣れた光景がと思ってたら。  
新しい影が！

次回もみてくださいm(ーー)m

異常な世界 五話

春「はあはあはあつ。」

結「くわい。」

空「鬼畜すぎるだろー。」

岬「まあ、間に合ったにいいんじゃね？」

春「そうだけど、体育館からここまでダッシュショットwww」

岬「まあ、いい練習になつたとおもえばいいんじゃね？」

結「たしかに。」

空「岬もいいことたまには良いこといつな。」

岬「たまにつてwww」

春「… なあ？」

結「なんだ？」

春「人変わつてね？」

岬「ほんとに、五人ぐらによつてる。」

空「ある意味お前らが落ちてないのが、不思議だなwww もちろん、結さんは別ですよ！！」

この学校の制度で成績順にクラスの入れ替えがある。だけど、Sクラスのクラス替えは珍しいものだ。

結「見たところ、四人ぐらい転校生みたいだな。」

岬「うわっ！ 転校してきてSクラス行きなんてやべえなwww」

空「というか、その転校生どっちも双子みたいですねwww」

春「ある意味すげえなwww」

岬「ん？ なんか、そのうちの一組が近づいてくるぞ？」

異常な世界 五話（後書き）

はいっ！

五話の終わりです　ｗｗ

次は二組の双子の登場です！！

次回予定

春たちの前に現れた、二組の双子。  
それも、どっちも何かわけがあるみたい。  
いつたい、春たちになにか関係が？

異常な世界 六話（前書き）

じんぐうじ  
神宮寺 雅

誕生日 2 / 12

ある、有名な剣道道場の跡取り息子  
昔は京都に住んでいた。

なので、時々関西弁になる。

髪が長くて女によく間違えられる。

昔岬と何かあつたみたいだ。

棗は双子の弟

じんぐうじ  
神宮寺 棗

誕生日省きます

雅の事をしたつていて憧れている。

髪は短く、顔立ちはきれいだ。

棗は剣道より柔道や空手、体を使つ技を得意とする。

雅は双子の兄

? 「久しぶりです。」

? 「元氣にしてみたいだな」

結「岬? 知り合いか?」

岬「あつ! ? . 。 すまん誰だたつけ?」

? 「あつ、やつぱり覚えてないですよね。」

? 「そりゃ、10年ぶりぐらいだからな。」

岬「うめん。つか、10年前って何かあつたような。」

空「珍しいね! 岬が記憶を忘れるなんて! !」

岬「くそつー。思い出せねえー。」

? 「いいんですよ。そのうち思いだしてくれたら。」

? 「なあ、雅。忘れられてるな! 以前にいつとひめ。」

春「おおー。頼むなー。」

? 「それじゃあ私から。私の名前は神富寺 雅です。隣にいる棗の双子の兄です。」

棗「俺は神宮寺 棗だ！ 隣にいる雅の双子の弟だ」

岬「忘れちまつて」めんなー。ちやんと思いだすからー。これからもみんなしくなーーー！」

雅「はーーー！」

棗「よろしくなーーー！」

キーン『一ノカーン』

雅「チャイムがなつたので僕たち戻りますね」

空「また、あとでねー！」

棗「やつぱつ、雪のやつ両の記憶流逝されたるな。」

雅「みたいやな。 残念やわ。 けどな、棗獲物が近くにあるやん。

」

棗「やな。 相手は俺らにやがてへんみたいやし。」

雅「すぐに仕留めたんねん。 また、昔のよつに笑顔になつてもううため」。 まつとつてな、岬はん

異常な世界 六話（後書き）

裏側　ｗｗ

春「なあ、今回俺ら出番少なくなねえか？」

結「だよな。」

春「これからは、結の出番は多分へると想ひよ（ｂｙ作者）だ  
つて　ｗｗｗｗ

結「なんだつて！？」

春「お前、ある意味主役でき立場なのにな　ｗｗ

結「くそつー、どつせ、今出でた新キャラをこいつぱいだすんだろ」

春「みたいだな　ｗｗ

結「はあ、最悪だ」

春「けど、俺はいつでもお前を見てるから

力ア　〃

結「急になつたにいつてんだ！」

春「顔真っ赤だぞwww」

結「うひうぬせーー！」

春「かわいいなwww」

結「やめろーーー！」

空「まあ、こんな風に時々出番が少ない人が喋るみたいですね。  
まつ、気が向いたらみてくださいねwww」

異常な世界 七話

キーンゴーンカーンゴーン

春「やつと、全部終わつた！」

結「お前はほとんど寝てただろーー？」

春「バレてたか？」

結「当たり前だーー！　あと、これから部長会議があるから岬に言つといてくれ。」

春「了解

結「お前も忘れずに行けよー！」

春「わかってるってーー！」

結「先に行つてるからなー！」

春「岬ーー！」

岬「ん？　なんだ？」

春「ここのあと、部活会議があるから来いって結が言つてたぞ。」

岬「おおつー マジかんじや、一緒に行くか?」

春「そだな」

春「でさわ 結の奴が朝起こしてくれるって言つたのに、先に行きやがったんだよ!」

岬「乙www」

春「一言だしwww」

プツンッ

岬「！！」

春「ん? 岬? じした?」

ポンッ

岬「わりい www 大切な用事があつたって言つか今出来たから行つてくれる!」

春「はあ!? なにいつてんだ? これから会議だぞ?」

タツタツタツ

岬「変わりの奴に行くよつに行つてくれーー！」

春「おいつ！ ちよつと待てって！－」

岬「用事つて言つとけよな～～」

春「おいつー、つて聞こえないよな。用事つてなんなんだよ。」

## 異常な世界 七話（後書き）

キャラの感想ww

空「急に岬用事つて走りだしましたね。」

結「ほんとにな。」

空「何処に行くんでしょう？」これから会議つて言つのに。」

結「俺が春の立場なら追いかけただろうつなww」

空「わすが結さん！ それじゃあ、僕とゆう存在を追いかけてくれませんか！？」

二口

結「…………。」

空「ああー その笑顔たまらないですー！ 結さん  
バツ

サツ

結「抱きつかなー！」

空「冷たいですね。。。そんな結さんの事が大好きです。」

結「はあ、勝手にしつけ。。。」

空「ありがとうございます！一生ついていきますーー！」

春「次回予告は俺が貰つた！」

次回予告

急に走りだした岬。大切な用事つてなんだよ。  
こっちの会議も大切だろ！  
そして、岬が倒れる！？  
はあ、なんだつて？  
まあ、次回も見てくれよな

異常な世界 八話（前書き）

今日は岬視点です。

ガチャ

やつぱり。

結界が破られてやがる。

俺は皆にある事を隠している。

それは、特別な仕事をしている事だ。

特別な仕事とは空を守る事だ。

空は特殊な体質で昔から変な物。

つまり普通の人には見えないやつらに襲われるという体質を持つている。

それが、五代に一度野上家の血縁者に現れる。

そのため、俺ら鈴岡家は野上家のボディーガードをしている。

空にはまだその事を知らせていない。

今はまだ、平和に過ごしてほしいから。空にこれ以上の負担をかけたくないから。

ちっ！

俺が作つた結界は誰にも破られた事は無いのに。  
だれがやつたんだ！

バツサツバツサツ

まあ、とりあえず仕事みたいだな。

キエーツ キエーツ

いつ聞いても不可解な音だな！

「お前らがいるから空が安全に生活できないんだよー。」

グシャツグシャグシャツ

ふう、やつと終わった。

たく、なんでこんなにいるんだよー！  
こいつらが、結界を解いた？

あり得ない。

いつものやつとかわりない。

じやあだねが？

まあ、また結界を張り直さないとな。

? 「なあ？ 僕それをやらると困るんだけど~~~~」

岬「ああ！？ 誰だ！ 」ここには誰も入れないはずだぞーー。」

異常な世界 八話（後書き）

次回

岬の結界を破つたやつが?  
どうなる岬!?

異常な世界 九話

? 「誰か？ 覚えてないの？ つまんないな わわ」

岬「はあ？ お前なんかしらねえよ… とりあえず、お前が結界を破つたみたいだな！！」

? 「そうだよ わわ てか、あの事を覚えてないなんて、都合よくねえぞない？ 最低だね。」

「こいつなんの事をいつてんだ！？」

岬「うるせー！ とりあえず、お前を倒す…！」

ダツ  
カキンッ

? 「熱くなんなつて わわ いつものお前らしくないぞ？ つてだいぶ昔の話だけど わわわわ」

昔？ 僕はこいつと戦った事なんて…。

岬「うるせー黙つてうー。」

? 「ほんと」。 残念。 世の丑が殺りがいがあったのに……。」

ガギンツ

岬「なつー?」

俺の持っていた木刀は弾かれてしまった。

? 「ほんとに何にもわかんないみたいだし、全部…。いや、自分がどれだけひどいか教えてやるよwww」

岬「なにをいつて…。」

? 「お前は仲間を捨てて、守るべき空をも捨てて、自分だけ生き残つたんだよwww」

俺が仲間を捨てて、空をも捨てた?  
ここつなにをいつて…。

岬「……あつー。」

? 「思い出してきたようだね。」

岬「そうだ。 俺はあのときー。 ああああああーー。」

思い出した…。

俺は空を仲間を見殺しにした…。

自分が弱かつたから？

いや、違う。

自分を守りたかったから……。

俺はなんてことを。

? 「ん~。 今の君を倒したって、面白くなさそうだねww じゃあ、待つてあげる君が全部思いだして昔の力を取り戻したらねw w その前に空は返して貰うから。」

ガツ

俺は相手の足をつかみ、声をあげた。

岬「俺は空を守るんだ！ 昔のようにならないために！！」

? 「残念。 今は無理ww それじゃあお休みなさいwwww

ガツ

岬「グハツ！」

俺は腹をおもいつきり蹴られた。  
意識が遠くなっていく…………。

岬「そつそらをつれて行かないでくれ…………。」

ガタツ

? 「ごめんな。 鈴岡くん……。 空は俺らひとつてはかけがえのない人だから。」

俺はその言葉を聞いてから気を失った。

異常な世界 九話（後書き）

氣を失つた岬！  
どうなる？

異常な世界 十話

んつ？

こ「は、 ど「だ？」

ベッドの上？

保健室かな？

？「お「つ！ 岬目が覚めたか！…」

んつ？

この声は春か？

岬「おお、 大丈夫だ。」

春「屋上でお前が倒れてたからビックリしたぞ！…！」

岬「ああ、 「めんな。」

春「大丈夫なのか？」

岬「ああ、 ただの過労とストレスだよ。」

春「ほんとうに、 お前は……。」

岬「そんな顔をするなwww お前りじくないぞwww」

バンッ

岬「痛つ！…」

春「おいつー？ 空なにしてんだ？」

空「なにって、呪いたんだよ。」

春「はあ！？ 意味わかんねえ！！ 岬は今病人なんだぞーーー！」

岬「春いいよ。」

春「いいわけないだろーーー！」

空「春、一回外に出てくれる？？」

春「なんでだよーーー？」

岬「春、頼むから。なつ？」

春「なつ……。岬が言うなら……。」

岬「ありがとうな。」

ガラツ  
バンツ

岬「空、春は行つたぞ？」

空「…………バカ。」

岬「うめん。」

ああ、また空を泣かしちまつたな。

「空？」  
「おいで。

バツ

空は素直に俺の腕の中に入つた。

そして、俺にバレないようになのか、息を殺して泣いている。

岬「俺は何処にも行かないから泣くな。」

空「泣いてねえよ！ つか、お前は俺に内緒で働きすぎなんだよ  
！！ たまには、俺を頼れよ……。」

岬「しめん。毎回お前には心配かけるな。わかつた、お前には  
出来るだけ頼るようにするから。だから、お前は泣くな。なつ  
？　かわいい顔が台無しだぞ？」

空「うるさいバカ岬……」  
な……。  
もう、倒れたり俺のそばを離れたりする

岬「わかつた。それじゃ、お前も俺のそばを離れんなよ?」

空「わかった。」

岬「素直でよろしく……」

空「グスツ　といあえず、まだ生徒会の仕事あるから行く。」

岬「わかった。　気をつけて行けよ。」

空「お前は無理せずに休んでけよ。」

岬「了解。　あつ、なあ雅と棗みたら、来るよって言つてくれ。」

空「わかった。　じゃあな？」

岬「おつー。」

空、ほんとうに俺のそばを離れないでくれよな？

異常な世界 十話（後書き）

春「おいつ わわ 結なにいじけてんだ?」

結「なにって、俺の出番かすぐねえんだよーー。」

春「しゃあねえじやねえかわわわわ」

結「はあ、出番が欲しい。俺だつて、最初は重要な人物だつたよな?」

春「まあな わわ お前はまだいいよ わわ 俺なんか、主人公的なポジションだつたんだせわわわわ」

結「そうだよな。」

春「なんで今は岬が主人公みたいな事にー!?」

結「えつと、ごめん。」

春「謝るな、つらくなる。」

結「ほんと!」。

憂「つてこんなネガティブなやつらなんかほつとして次回予告言つ

かやこまむ  
」

次回

岬が雅と棗を呼んだ理由とは?

次回をお楽しみに

つて、俺が一番出番ないんだけどな…。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6252x/>

---

異常な世界 男子高の物語でBL要素満点ですww

2011年11月24日20時48分発行